

第4章

少子化対策に関する分析

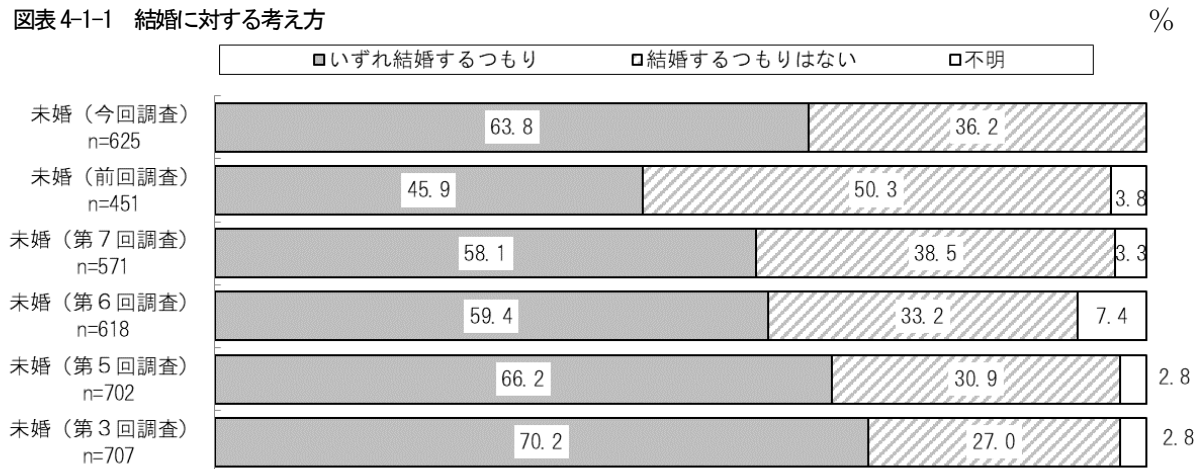
第1節 結婚や家族に関する現状と分析

1 結婚に対する考え方

(1) 過去からの推移

結婚に対する考え方について、未婚の「いずれ結婚するつもり」を選んだ割合が、第3回調査以降、次第に低くなっていましたが、今回調査では、前回調査より17.9ポイント高くなっています(図表4-1-1)。

図表4-1-1 結婚に対する考え方

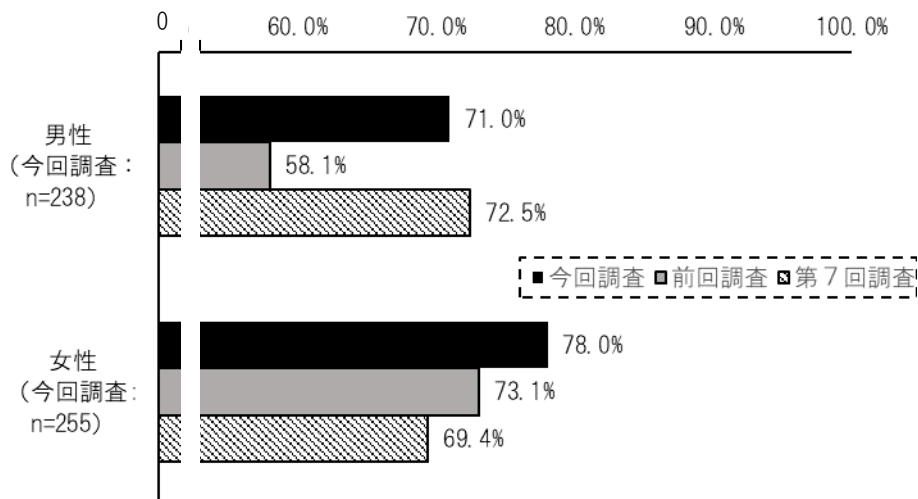


(備考) 第1回、第2回及び第4回では結婚の意向について質問していないため、上記のような比較となっています。

(2) 結婚への希望×性別×未婚 (18~40歳代)

結婚に対する考え方について、18~40歳代の未婚に限定して分析したところ、男性の71.0%、女性の78.0%が「いずれ結婚するつもり」と回答しています。男性では前回調査より12.9ポイント高くなっており、女性では4.9ポイント高くなっています。第7回調査と比較すると、男性は同程度で女性は上昇傾向となっています(図表4-1-2)。

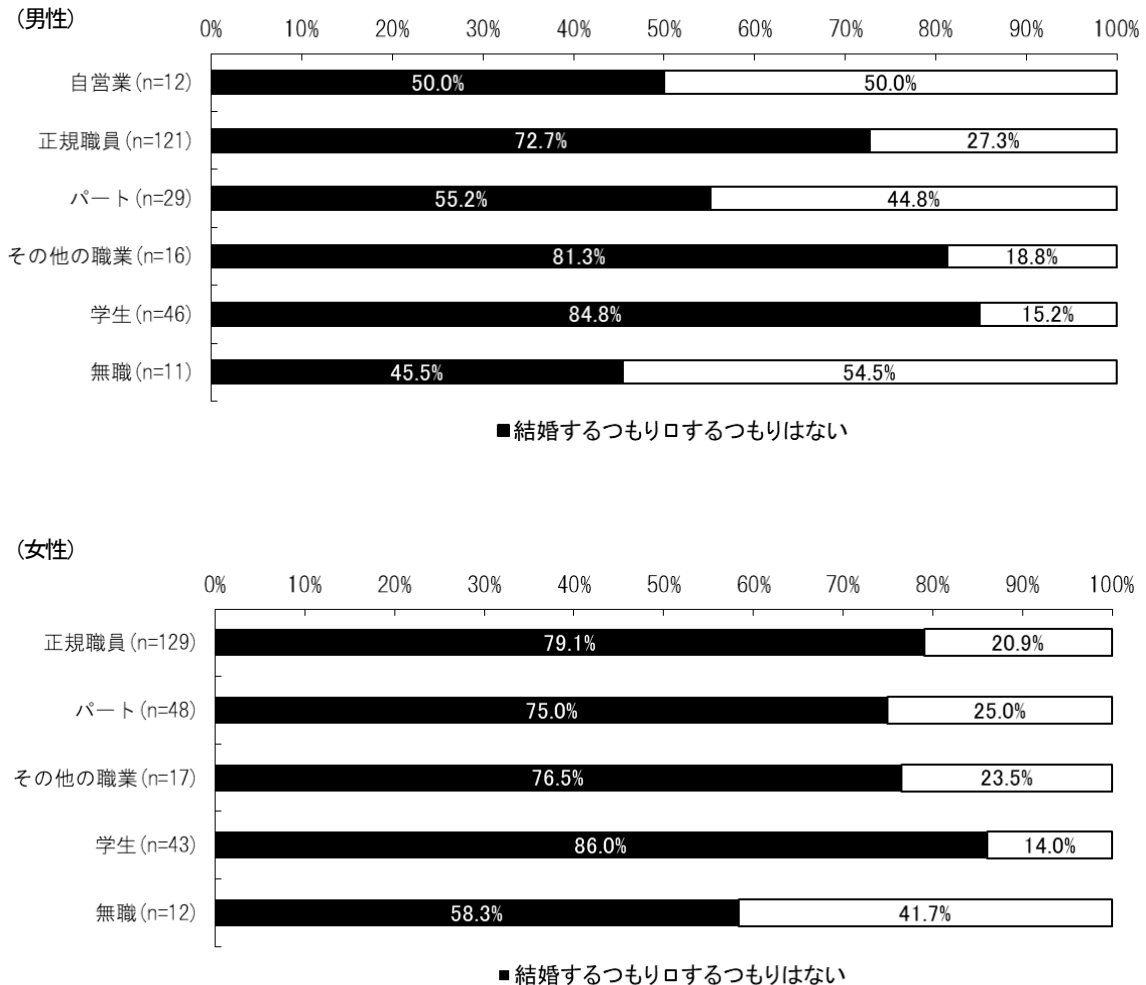
図表4-1-2 「いずれ結婚するつもり」と回答した人の割合 (18~40歳代の未婚男女)



(3) 結婚への希望×未婚×職業 (18~40 歳代)

18~40 歳代の未婚の男性・女性の職業と結婚への希望をクロス分析したところ、男性では正規職員 (72.7%)、その他職業 (81.3%) などで「いずれ結婚するつもり」が高く、パート (55.2%)、無職 (45.5%) などが低くなり、雇用形態の違いによって差がありました。一方、女性では無職 (58.3%) で「いずれ結婚するつもり」が低いものの、男性ほど雇用形態の違いによる差は見られませんでした。(図表 4-1-3)。

図表 4-1-3 職業別「いずれ結婚するつもり」、「結婚するつもりはない」と回答した人の割合 (18~40 歳代の未婚の男女)



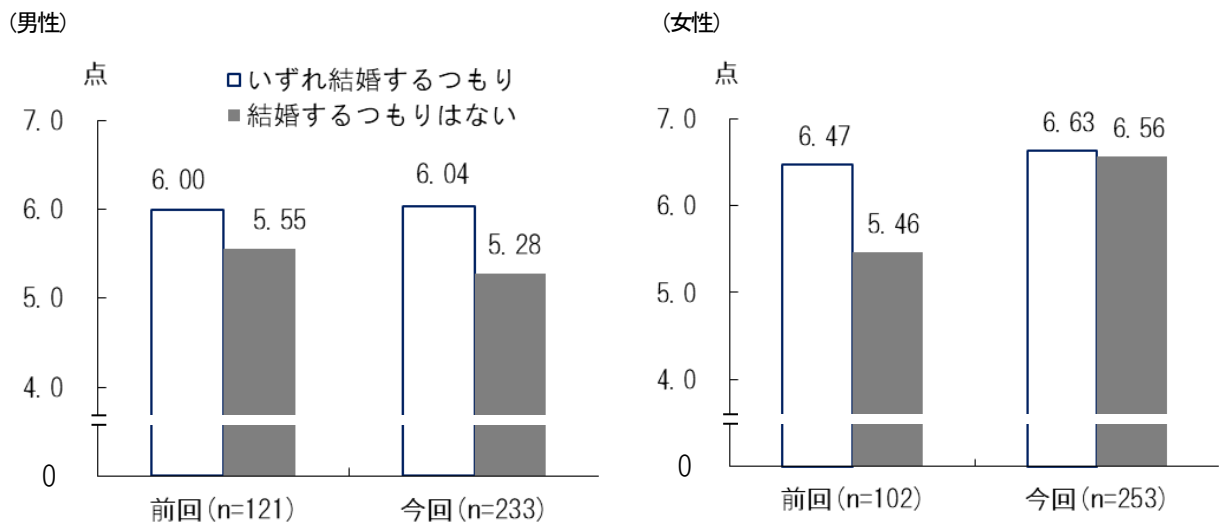
(備考) サンプル数が10未満の一部職業は、掲載を省略しています。

(4) 幸福感×未婚 (18~40 歳代)

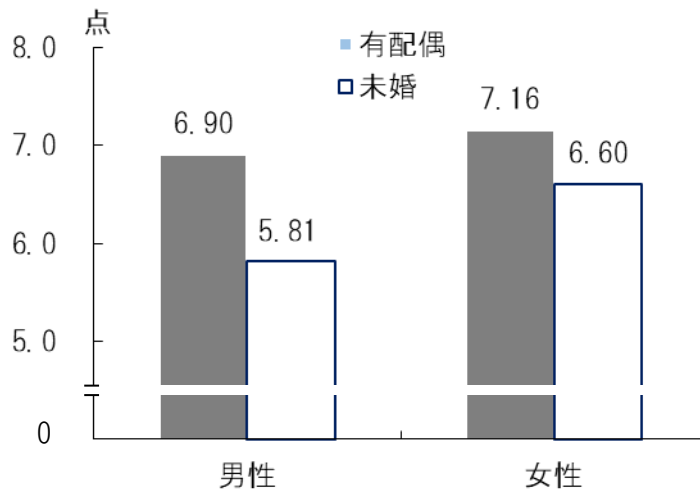
18~40 歳代の未婚の男性・女性と幸福感をクロス分析したところ、男性では「いずれ結婚するつもり」と回答した人の幸福感 6.04 で、「結婚するつもりはない」と回答した人の幸福感 5.28 より、0.76 点高くなっています。女性では「いずれ結婚するつもり」と回答した人の幸福感 6.63 で、「結婚するつもりはない」と回答した人の幸福感 (6.56) と同程度となっています(図表 4-1-4)。

また、前回調査と今回調査とを比較すると、女性の場合、「いずれ結婚するつもり」と回答した人と「結婚するつもりはない」と回答した人との幸福感の差が小さくなっています。

図表 4-1-4 「いずれ結婚するつもり」、「結婚するつもりはない」と回答した人の幸福感 (18~40 歳代の未婚男女)



(参考：未婚と有配偶の幸福感 (今回調査：18~40 歳代の男女))

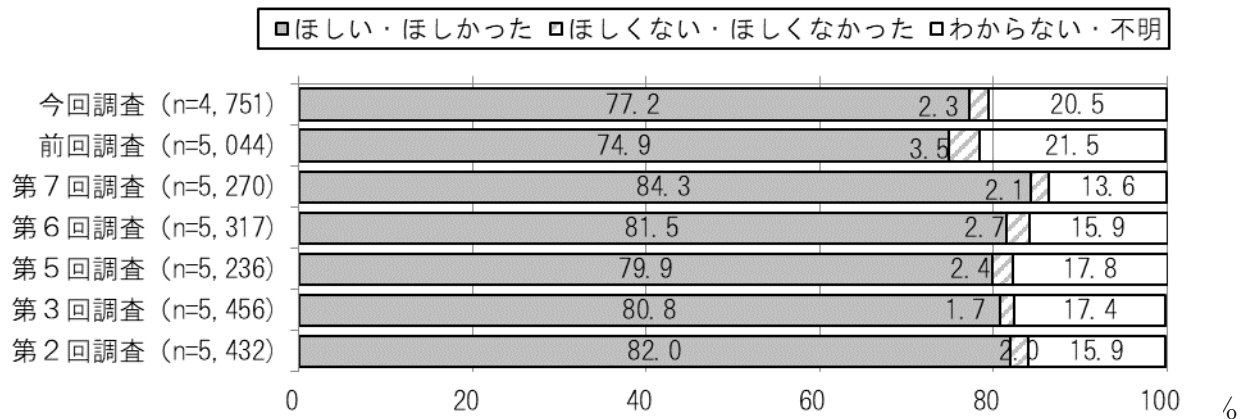


第2節 妊娠・出産、子育てに関する現状と分析

1 子どもを希望する割合の推移

子どもの希望について、「子どもがほしい・ほしかった」の割合は77.2%で、前回調査より2.3ポイント高くなっています。一方、中期的に推移を見ると、「子どもがほしい・ほしかった」の割合は、低下してきています（図表4-2-1）。

図表4-2-1 子どもを希望する割合

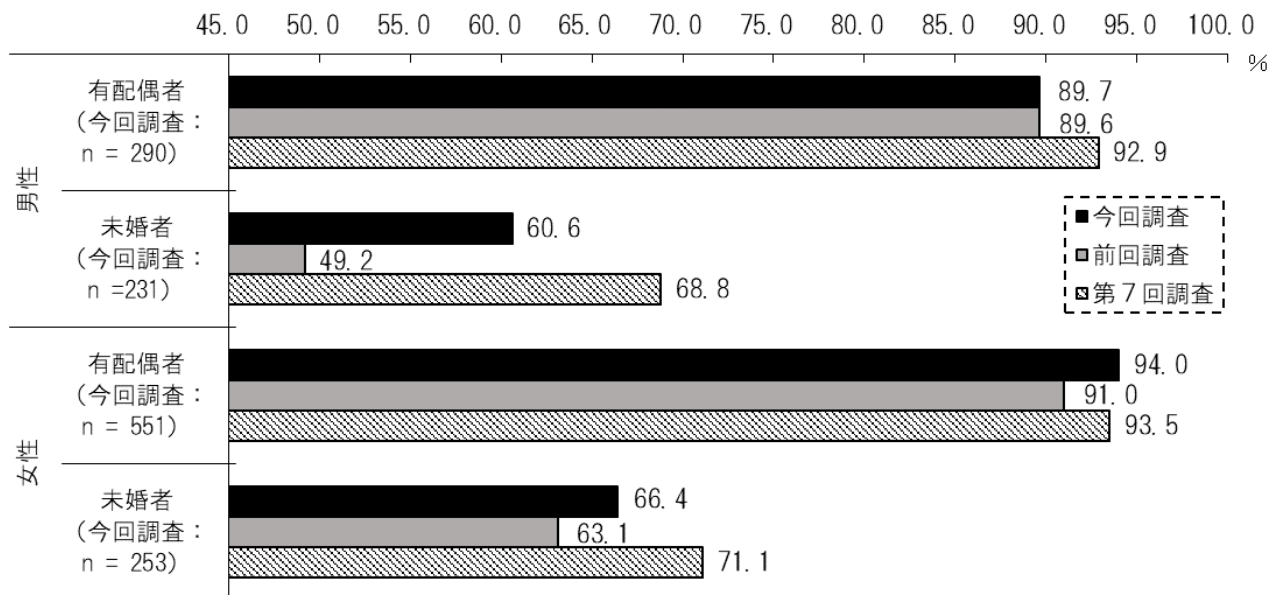


2 属性別の子どもの希望

(1) 性別×未婚・有配偶別×子どもの希望（18～40歳代）

18～40歳代のうち、子どもがほしいと思う人の割合は、有配偶者では男女ともに約90%となっています。また、今回調査では有配偶・未婚（男女）それぞれで前回調査より、希望する割合が上昇しており、未婚の男性では60.6%と、前回調査よりも11.4ポイント高くなっています。一方、第7回調査からの比較では、女性有配偶以外は低下傾向となっています（図表4-2-2）。

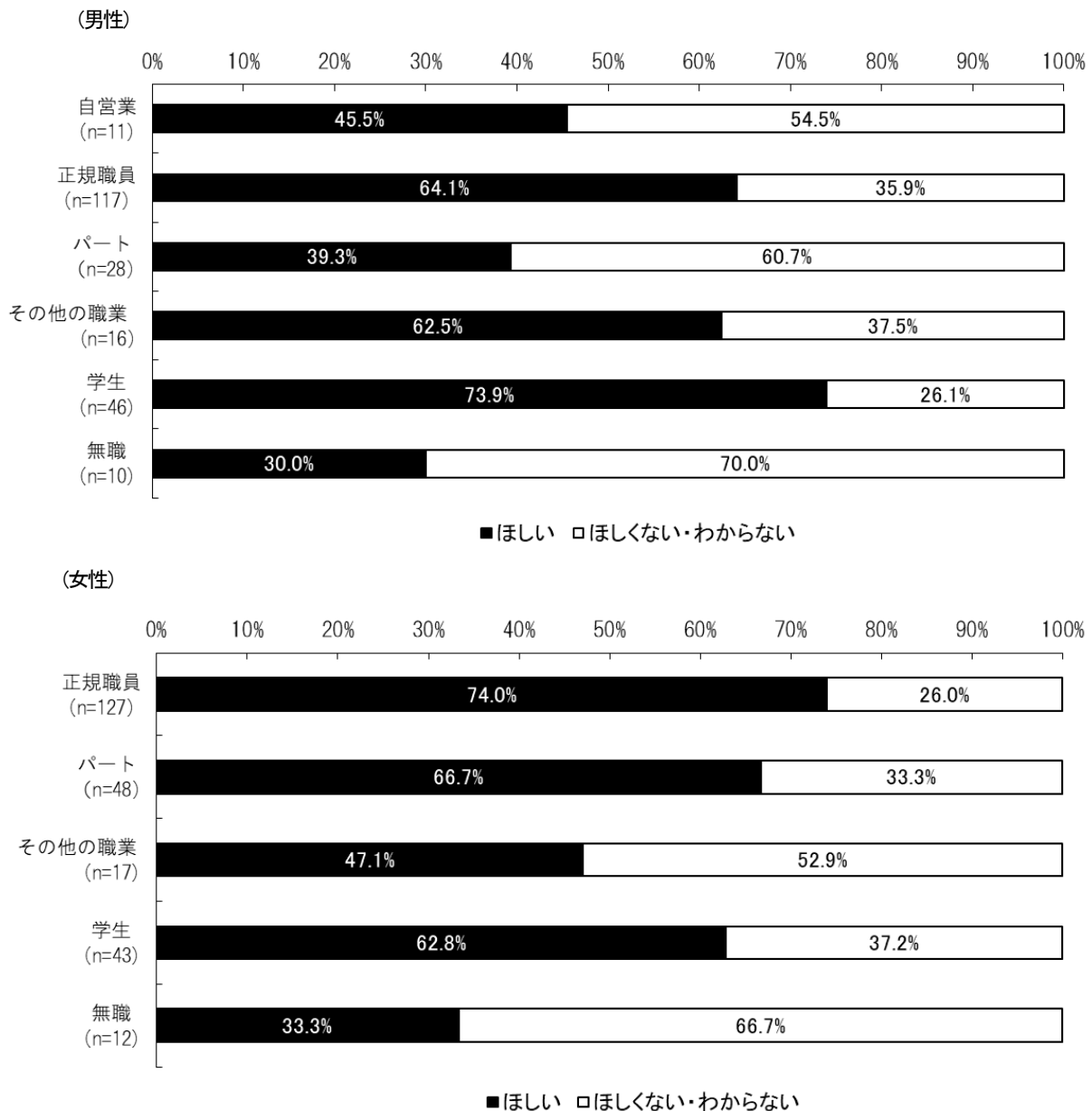
図表4-2-2 子どもを希望する割合（18～40歳代）



(2) 職業別×性別×未婚×子どもの希望 (18~40 歳代)

18~40 歳代の未婚の男性・女性の職業と子どもの希望をクロス分析したところ、「子どもがほしい」の割合は、正規職員では男性は64.1%、女性は74.0%と高い一方、男性はパートで39.3%、女性はその他の職業で47.1%となるなど、雇用形態により差が見られました(図表4-2-3)。

図表4-2-3 子どもを「ほしい」と回答した人と子どもを「ほしくない」またはほしいかどうか「わからない」と回答した人の職業の割合 (18~40 歳代の未婚男女)

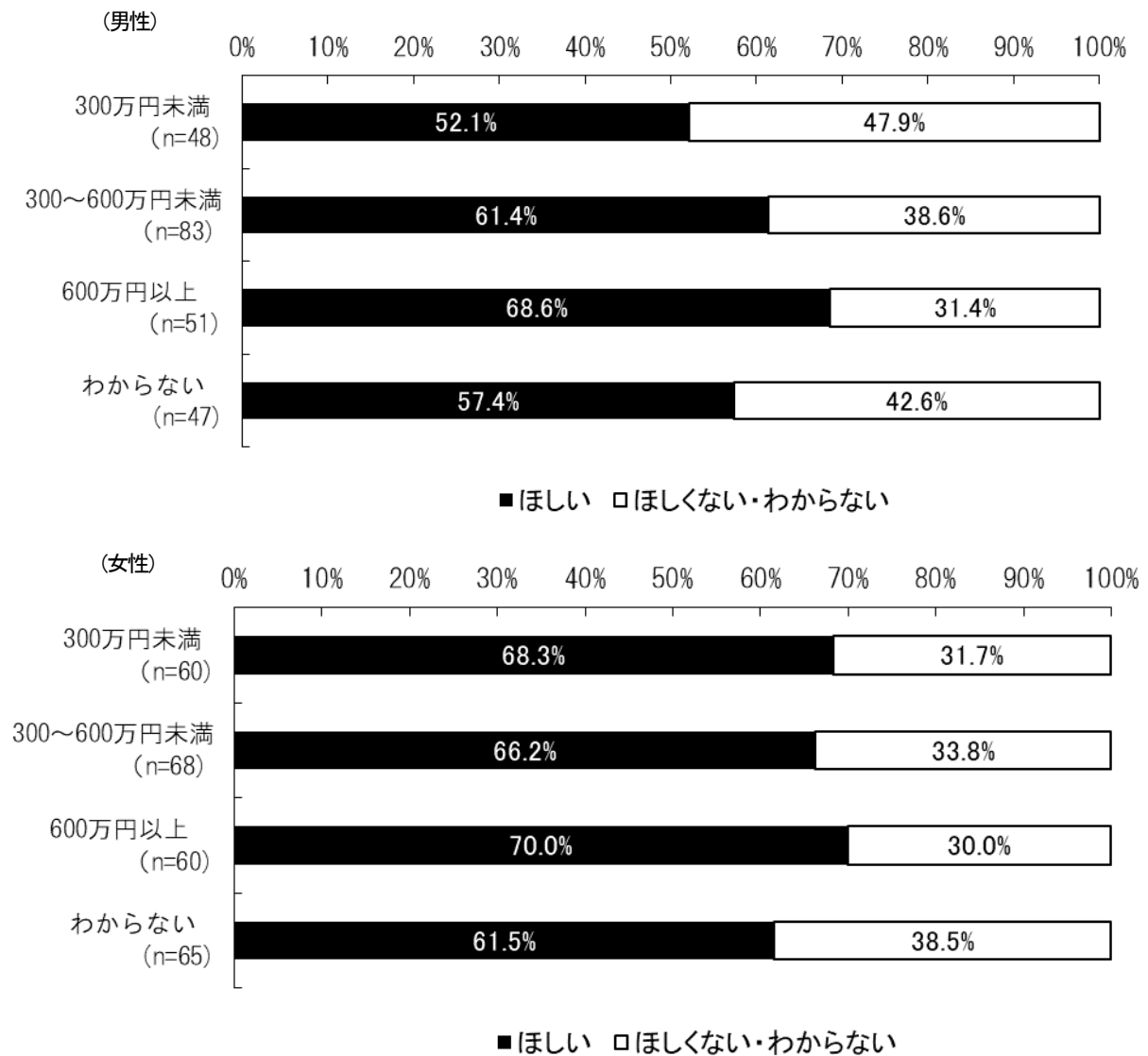


(備考) サンプル数が10未満の一部職業は、掲載を省略しています。

(3) 世帯収入別×性別×未婚×子どもの希望 (18～40 歳代)

18～40 歳代の未婚の男性・女性の世帯収入と子どもの希望をクロス分析したところ、男性では世帯収入が高くなるほど「子どもがほしい」割合が高くなる傾向がありました。女性では「子どもがほしい」割合と世帯収入に顕著な関係性は見られませんでした (図表 4-2-4)。

図表 4-2-4 子どもを「ほしい」と回答した人と子どもを「ほしくない」またはほしいかどうか「わからない」と回答した人の世帯収入の割合 (18～40 歳代の未婚男女)

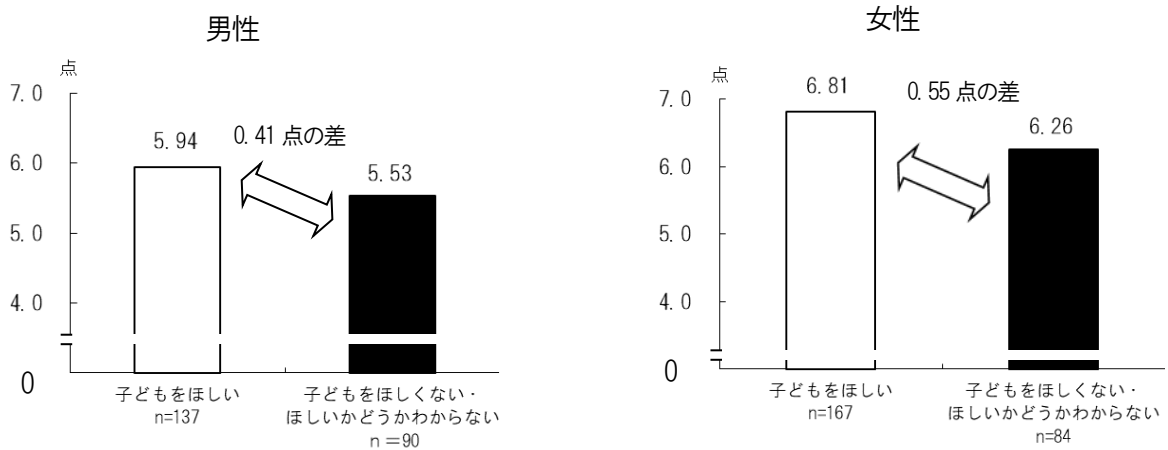


(4) 幸福感×未婚×子どもの希望 (18~40 歳代)

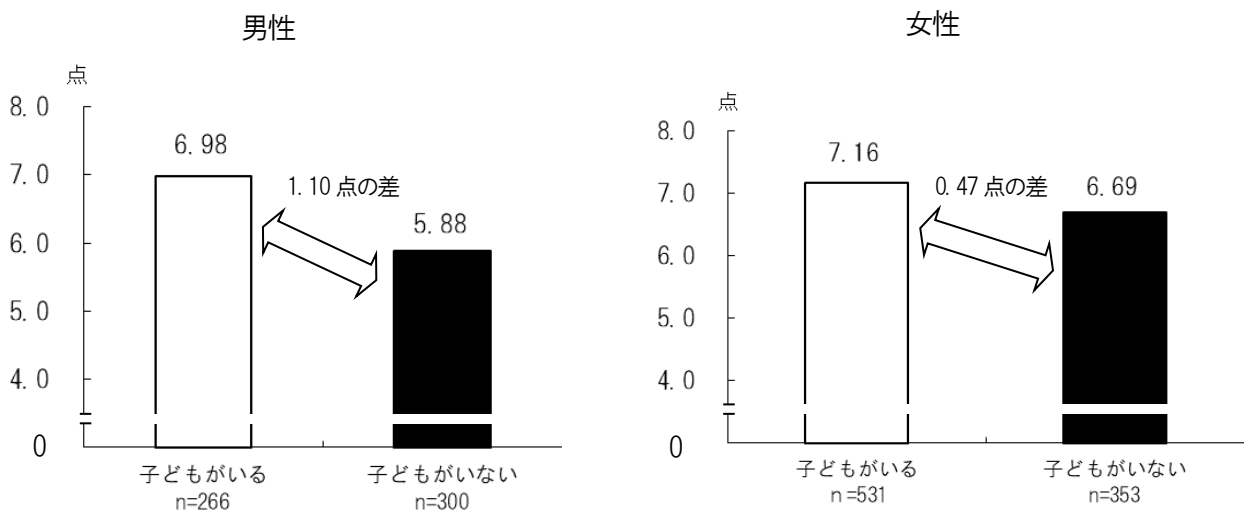
18~40 歳代の未婚の男性・女性のうち、幸福感と子どもの希望のクロス分析をしたところ、男性では子どもを「ほしい」と回答した人の幸福感は5.94で、子どもを「ほしくない」または、ほしいかどうか「わからない」と回答した人の幸福感5.53より、0.41点高くなっています。

また、女性では子どもを「ほしい」と回答した人の幸福感は6.81で、子どもを「ほしくない」または、ほしいかどうか「わからない」と回答した人の幸福感6.26より、0.55点高くなっています(図表4-2-5)。

図表4-2-5 子どもを「ほしい」と回答した人と子どもを「ほしくない」またはほしいかどうか「わからない」と回答した人の幸福感 (18~40 歳代の未婚の男女)



(参考：子どもがいる層と子どもがいない層の幸福感 (18~40 歳代の男女))

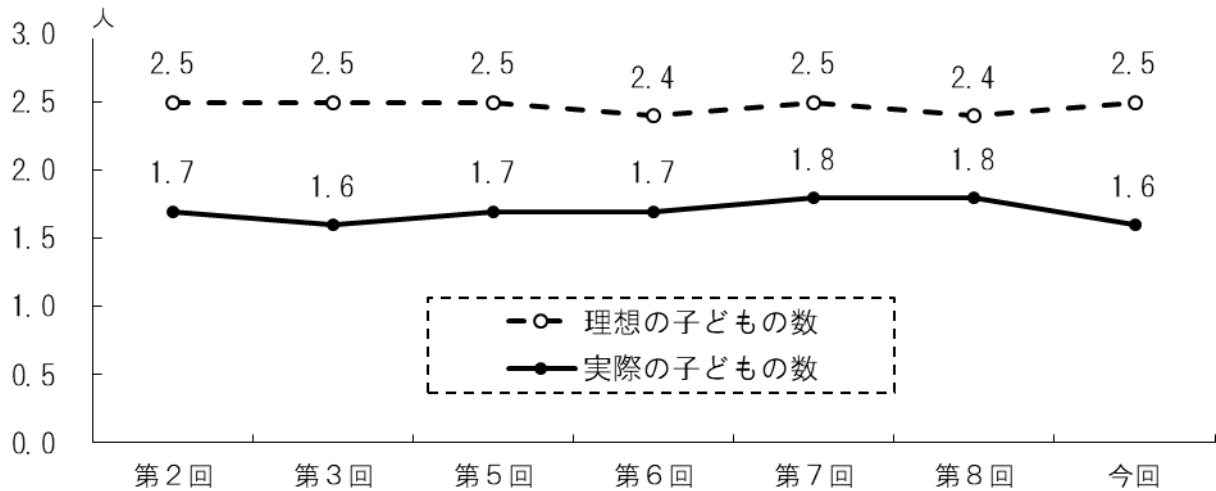


第3節 実際の子どもの数と理想の子どもの数の差の理由

(1) 実際の子どもの数と理想の子どもの数の差の推移

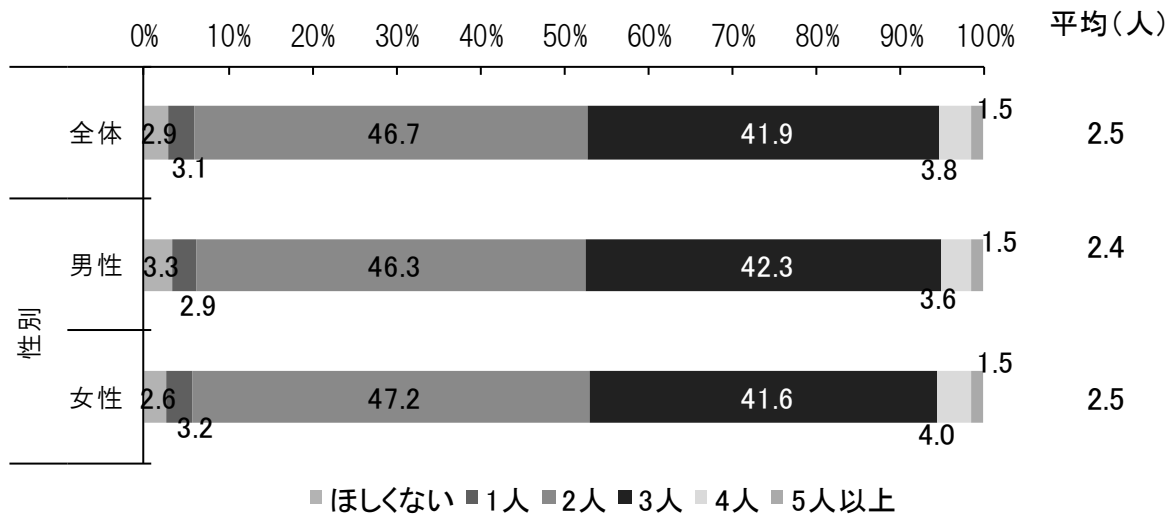
第2回調査から今回調査における実際の子どもの数は1.6~1.8人となっている一方、理想の子どもの数は2.4~2.5人となっており、実際と理想の子どもの数にギャップが生じています(図表4-3-1a、図表4-3-1b)。

図表4-3-1a 実際の子どもの数と理想の子どもの数の推移



(備考) 第1回及び第4回調査では実際の子どもの数と理想の子どもの数について質問していないため、上記のようなグラフとなっています。

図表4-3-1b 実際の子どもの数と理想の子どもの数 (男女別)

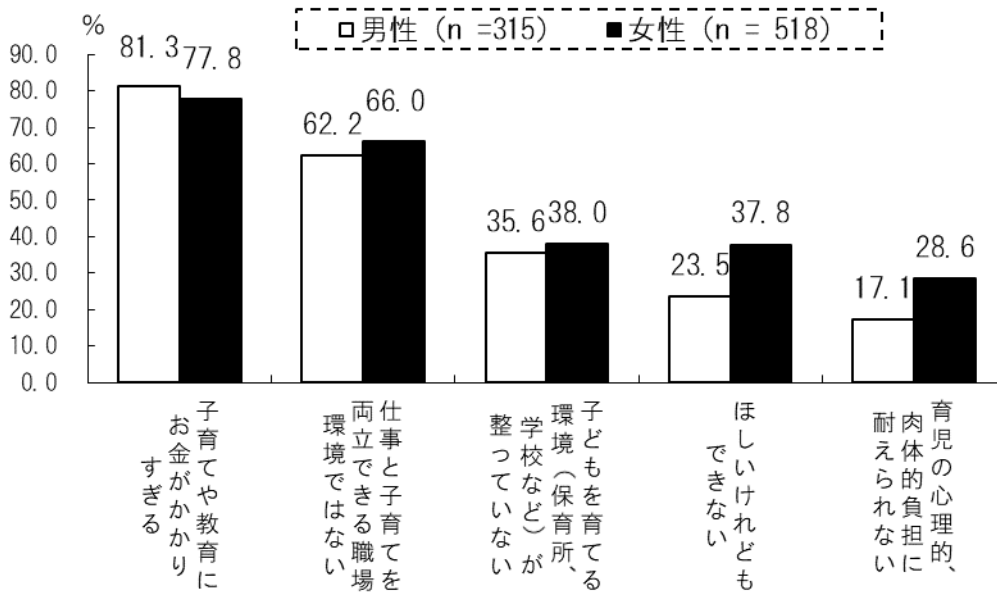


(2) 性別×実際の子どもの数と理想の子どもの数の差が生じる理由 (18~40 歳代)

実際の子どもの数が理想の子どもの数より少なかった 18~40 歳代を対象に聞いたその理由について、男女別にクロス分析したところ、男女とも「子育てや教育にお金がかかりすぎる」が最も多くなっています。

「ほしいけれどもできない」は、女性のほうが男性より 14.3 ポイント高く、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられない」でも、女性のほうが男性より 11.5 ポイント高くなっています(図表 4-3-2)。

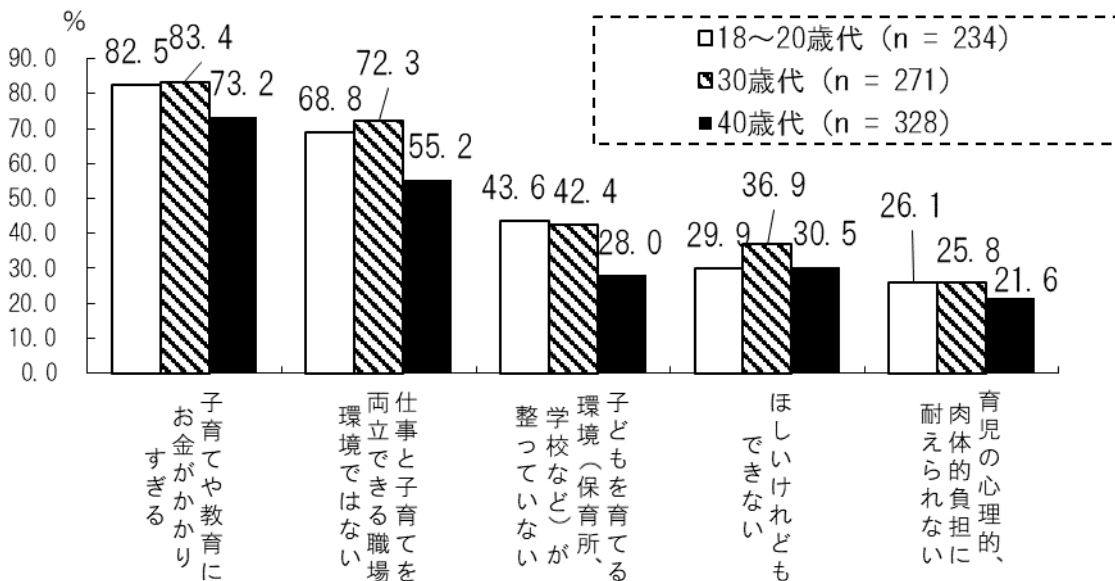
図表 4-3-2 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由 (18~40 歳代の上位5項目：男女別)



(3) 年齢別×実際の子どもの数と理想の子どもの数の差が生じる理由

実際の子どもの数が理想の子どもの数より少なかった 18~40 歳代を対象に聞いたその理由について、年齢別にクロス分析をしたところ、どの年齢層においても「子育てや教育にお金がかかりすぎる」を選んだ割合が最も高くなっています(図表 4-3-3)。

図表 4-3-3 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由 (18~40 歳代の上位5項目：年齢別)



(4) 性別×子どもの数別×実際の子どもの数と理想の子どもの数との差が生じる理由

実際の子どもの数が理想の子どもの数より少なかった 18～40 歳代を対象に聞いたその理由について、性別、実際の子どもの数別でクロス分析を行いました。

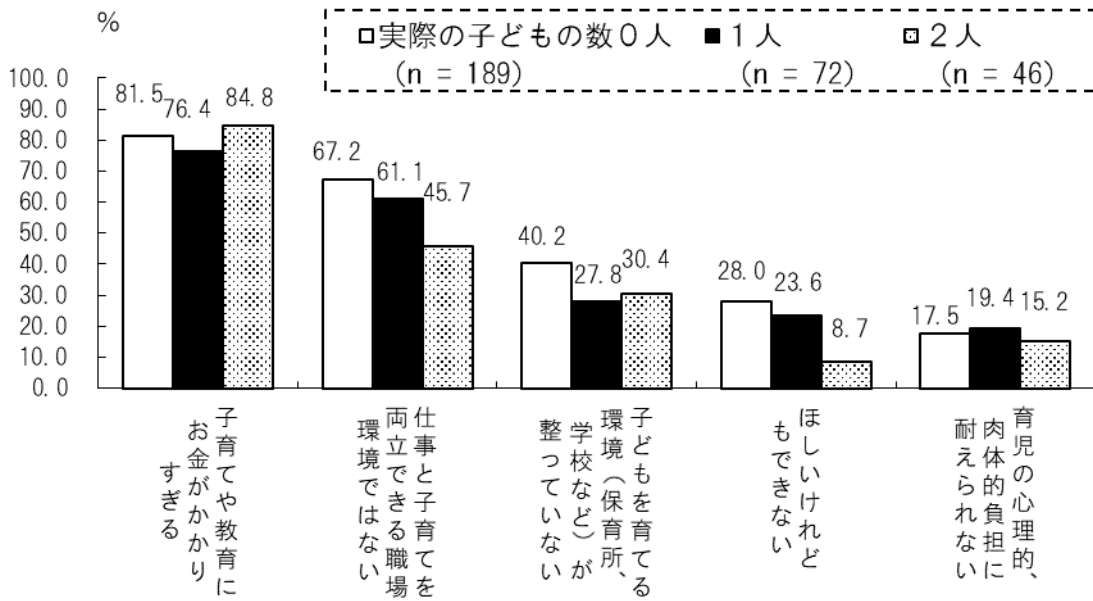
「子育てや教育にお金がかかりすぎる」を選んだ割合については、実際の子どもの数が1人の場合、男性では 76.4%、女性では 75.4%、実際の子どもの数が2人の場合、男性では 84.8%、女性では 83.8%となり、実際の子どもの数が多いほど割合が高くなる傾向があります。なお、男女間での差は見られませんでした。

一方、「仕事と子育てを両立できる職場環境ではない」を選んだ割合については、実際の子どもの数が2人の場合、男性では 45.7%、女性では 63.8%となり、18.1ポイントの差がありました。

その他にも、実際の子どもの数が1人の場合、「ほしいけれどもできない」を選んだ割合が、女性 (41.8%) は男性 (23.6%) より 18.2ポイント高く、「子どもを育てる環境が整っていない」を選んだ割合が、女性 (44.3%) は男性 (27.8%) より 16.5ポイント高くなっています。

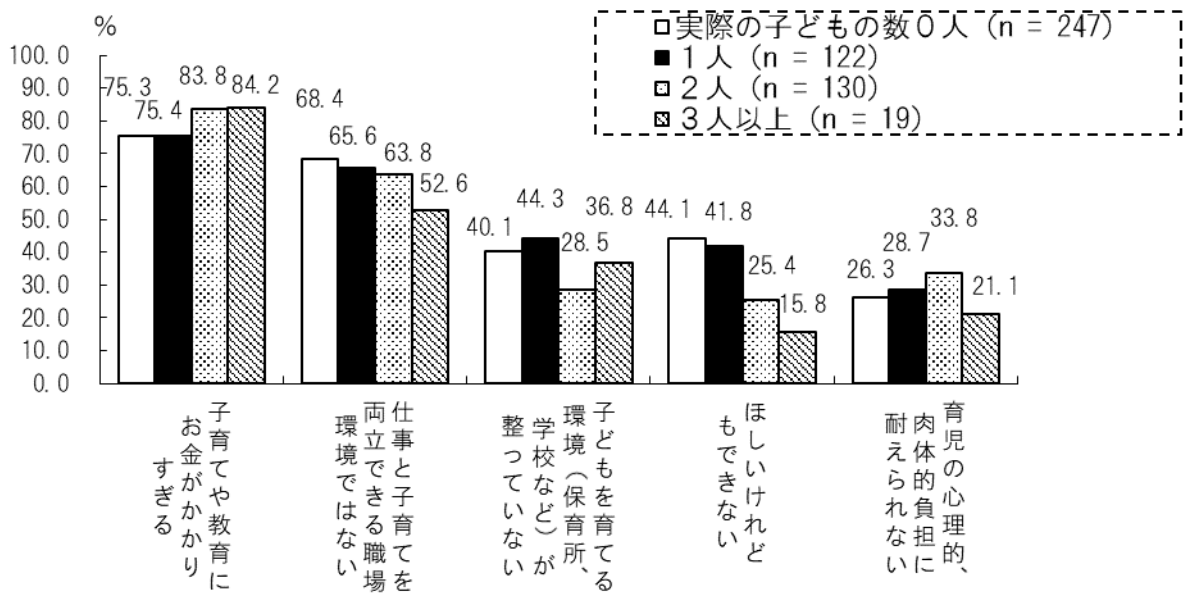
また、すべての子どもの数において、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられない」を選んだ割合が、女性のほうが男性より大きく上回っています(図表 4-3-4、図表 4-3-5)。

図表 4-3-4 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由 (18~40 歳代の男性の上位5項目)



(備考) サンプル数が10未満の一部の層は、掲載を省略しています。

図表 4-3-5 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由 (18~40 歳代の女性の上位5項目)



■少子化対策（妊娠・出産、子育て）に係る政策の示唆

幸福感と幸福実感指標「結婚・妊娠・子育てなどの希望がかなっていない」は比較的強い相関関係があることから、少子化対策や子ども・子育て施策を進めることが、県民の幸福実感を高めるために有効であると考えられます。

今後の少子化対策については、実際の子どもの数と理想の子どもの数にギャップがある理由に関する属性別の傾向に着目し、きめ細かな対策を講じることが重要であると考えられます。

特に「子育てや教育にお金がかかりすぎる」、「仕事と子育てを両立できる環境にない」と回答した割合が高いことから、引き続き、所得向上につながる就労支援やキャリアアップ支援、待機児童の解消など、県民の皆さんが働きながら安心して子育てができるような対策が必要です。

また、「ほしいけれどもできない」と回答した割合も一定存在することから、不妊に悩む夫婦への支援についても継続的に取り組むことが重要であると考えられます。

「子育てや教育にお金がかかりすぎる」を選んだ割合については、実際の子どもの数が1人の場合、男性では76.4%、女性では75.4%で、実際の子どもの数が2人の場合、男性では84.8%、女性では83.8%となり、実際の子どもの数が多いほど割合が高くなる傾向があります。なお、男女間での差は見られませんでした。

一方、「仕事と子育てを両立できる職場環境ではない」を選んだ割合については、実際の子どもの数が2人の場合、男性では45.7%、女性では63.8%となり、18.1ポイントの差がありました。

その他にも、実際の子どもの数が1人の場合、「ほしいけれどもできない」を選んだ割合が、女性(41.8%)は男性(23.6%)より18.2ポイント高く、「子どもを育てる環境が整っていない」を選んだ割合が、女性(44.3%)は男性(27.8%)より16.5ポイント高くなっています。

また、すべての子どもの数において、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられない」を選んだ割合が、女性のほうが男性より大きく上回っています。

今後とも、現在の取組の効果検証を行いながら、市町、企業等と連携し、より効果的に成果が表れるよう、きめ細かな少子化対策を進めていく必要があります。

みえ県民意識調査分析レポート（令和2年度）
－ 県民の幸福実感向上のために －

令和3（2020）年1月
三重県 戦略企画部 企画課

〒514-8570 津市広明町13番地
T e l : 059-224-2025
F a x : 059-224-2069

E-mail : kikakuk@pref.mie.lg.jp
URL : <http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/>
